

◆日根野聖子 選

小西昭夫先生は、十五年前から俳句とアートの作品展「遊五人展」を開催されています。今年は、水墨画やイラスト、写真など、十三名の作家による作品七十点が展示されました。

会期中の朗読会では、小西先生の俳句とコメントの作品「チンピラⅨ」が披露され、会場は、オホホ、アハハ、フムフムの心とむひと時となりました。

「チンピラⅨ」

小西昭夫

ぶんぶんとぶんぶんぶんとかなぶんぶん

ぶ、ん、と、か、なの五音で俳句を作ってみました。

子子の腰くねらせて浮いてくる

色っぽいということはいいことです。

五月来る馬鹿にがつくほど晴朗に

四月馬鹿は有名ですが、五月も負けていません。

羽抜鶏ぼくは奥歯を抜かれます

鶏の羽は抜けてもまた生えてきます。

遠足のバスを飲み込む春の山

観察していますと、山は結構大食漢です。山の胃袋は結構大きいのです。

真っ直ぐの言葉はあらず蝶の辞書

ナポレオンの辞書には「不可能」という文字はありませんでした。

青葉風今日はフランスパン日和

ぼくはアンパンマン日和も好きです。

四捨五入してカブト虫六センチ

小学校で習った算数は今も役に立っています。

梅雨鯨小顔のものもあらまほし

「あらまほし」というのは、あって欲しいということです。小顔が流行る時代です。

耳にまで蟻の来ている庭仕事

ちょっとかゆいなと思って手をやりました。

贅沢は素敵だ大粒さくらんぼ

戦時中のスローガンは「贅沢は敵だ」でありました。

案内を間違えている道おしえ

道おしえとは はんみょう斑猫 という虫のことです。山径に行くとよく出会います。人が近づくと一メートルほど飛び去り、また近づくと飛び去るので、まるで人に道を教えているようなのです。

名を聞いてすぐに忘れる秋の草

忘れな草のことではありません。

この世とは不可解なりと蚯蚓鳴く

鳴かないのに俳人に鳴くと言われている蚯蚓のつぶやきです。

夫婦相和し枝豆御飯好むなり

「夫婦相和し」は戦前の「教育勅語」にある言葉ではありません。

す播り終えし大根おろし五人分

結構疲れます。

発つことのなき白鳥が堀之内

白鳥は渡り鳥ですが、春になっても帰らない白鳥もいます。

下向いて歩くばかりや秋暑し

坂本九の「上を向いて歩こう」という歌は大ヒットしました。

自分から見つかりに行くかくれんぼ

かくれんぼとは何と淋しい遊びでしょう。

西鶴忌恋に死ぬとは贅沢な

たましいのお話です。

日記には亀が鳴いたと書いておく

嘘も方便です。

夫婦とは二心二体の温かさ

夫婦は一心同体というのは嘘です。

秋茄子を食うているなり妻の留守

秋茄子は嫁に食わすなといます。

別れる切れるは俳句の話秋の暮

俳句では季語よりも切れが大切という方もいます。

くるくると柿を裸にして吊るす

ぼくはサディストではありません。

年越しのそばは大盛りだが足りぬ

毎年、年越しそばを食べます。

蛤の雀にもどることありや

秋になって雀が少なくなるのは、雀が海に入って蛤になるからだそうです。

妻の留守三日で尽きるおでん種

献立はおでんです。カミさんは出かけるようです。

チンピラの真面目なこころ秋の空

女心と秋の空、男心と秋の空とも言います。